

## 小千谷市桜町

調査日：平成 16 年 10 月 31 日（日）

班：地盤土構造マネジメント班 [古関]

分類別：被災状況

キーワード別：液状化、地下埋設物、上・下水道

### 調査結果

交差点にあるマンホールの浮き上がり量が最大で約 1m（写真 1）。埋め戻し部のみが沈下しており（写真 2）、原地盤では液状化が生じていないと判断される。電柱基部からの噴砂も山砂（写真 3：ただし後述する傾斜した電柱周辺では噴砂なし）。電柱が路面と反対側に傾斜していた箇所（写真 4）では、側方の原地盤部の標高が低く、そちらへ向かって埋め戻し部が変形した可能性が考えられる。

隣接する住宅分譲地内では電柱の沈下（写真 5）と塩ビ製排水柵の浮き上がり（写真 6）あり。原地盤部では噴砂等の異状はなし。

沈下した歩道部の埋め戻し土について、亀裂から舗装下部を観察したところ、20cm 程度の空隙が生じていた。これは当然埋め戻し土の液状化によるものであるが、このまま放置すると舗装が突然陥没し歩行者が怪我をするおそれがある。早急な復旧が必要である。



写真1 小千谷市桜町交差点マンホールの浮き上がり



写真2 埋め戻し部の沈下



写真3 電柱基部からの噴砂



写真4 電柱の傾斜



写真5 住宅分譲地内での電柱の沈下



写真6 住宅分譲地内での排水枡の浮き上がり